

受講生授業アンケート(2023年度)の集計結果について

調査活動WG長 武蔵 健裕

<はじめに>

2023年度前期および後期に実施しました受講生授業アンケートの結果についてご報告いたします。2021年度以前の本調査は「受講生満足度調査」という名称で実施して参りましたが、授業改善へ向けた本来の取り組みに対して、より合致する名称として2022年度より「受講生授業アンケート」へと名称を変更いたしました。またアンケートの実施方法として、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策としてCourse Powerを用いた調査、2021年度は回答学生の特定防止策としてMicrosoft Formsを用いた調査を実施いたしましたが、昨年2022年度からはAssessmentorを用いた調査へと変更が続いて参りました。これらの変更に伴いその都度、学生用および教員用のマニュアルをそれぞれ作成し実施して参りました。2023年度はマニュアルの微調整を行いながら、Assessmentorを用いた方法で実施いたしました。変更点としては、レスポンスシートにある「学生へのフィードバック」に関して、履修した学生に対する教育的なフィードバック(指導)と一部で捉えられ誤解が生じていたため、「学生へのコメントおよび今後の授業改善策」へと名称変更し、学生からの要望に対して次年度どのように対応するのか、あるいは、学生の声を聴いて授業をどのように改善していくのかを記載する趣旨を明確にしました。

2022年度より本方法による2年目の実施となり、初年度と比べて大きなトラブル等もなく実施できましたことは、教職員の皆様のご理解とご協力によるものであり、深く感謝申し上げます。

<質問項目>

2018年度まで授業区分(講義・演習・実験実習)毎に分かれていたアンケートを2019年度より1つにまとめて整理しました。この際、学生のパフォーマンス(知識・技能・態度)にどれだけ良い変化を及ぼしたのか、すなわち教育の成果を学生自身に自己評価してもらう質問項目を加えました。2020年度は急遽、新型コロナウイルス感染症拡大防止策としてWEB形式(Course Power)でアンケートを実施することとなったため、質問項目を少なくしましたが、却って授業の改善点が見えにくくなるといった反省点がございました。そこで、2021年度は遠隔授業が今後も残っていくという前提で再度、質問項目を見直し、自由記述を含めて10項目としました。これ以降は質問項目を大きく変更することなく、2023年度も同様な内容で実施しました。ただし、自由記述(Q10)に授業改善の趣旨に反する教員への誹謗・中傷などが一部でみられたことから、2022年度より注意を促す記述を追記しました。以下の表に旧質問項目との対応表をお示しします。旧アンケートでは質問項目が比較的近いものを対応させておりますが、完全に同じものではないことをご承知おください。また、自由記述(Q10)を除く質問項目(Q1～Q9)に対する回答は従来通り6段階からの選択式としておりますが、学生が選択しやすいように具体例を付けるなどの工夫も行っております。

表1 2023年度の質問項目と旧質問項目の対応表

2023年度	2021年度以降	2020年度	2019年度
Q1.【学修時間】あなたは、この授業の学修を1週間で平均どの程度しましたか？ただし、この学修には教室等で授業を受けている時間や試験の準備に使った時間も含まれます。	Q1	Q1	Q1
Q2.【学修意欲】あなたは、この授業の到達目標を意識し、目標達成に向けて意欲的に学修に取り組みましたか？	Q2	Q2	Q2
Q3.【聴覚情報】教員の話し方(配信動画も含む)は明瞭で、聞き取りやすかったですか？	Q3		Q3
Q4.【視覚情報】板書、パワーポイント、配付資料、動画など、教員が独自に用意した視覚的な資料は分かりやすかったですか？	Q4	Q3	Q4
Q5.【理解度の把握】教員は、アンケート、小テスト、課題などを用いたり、質問を投げかけたりすることによって、学生の理解度を把握するように努めていましたか？	Q5	-	Q5
Q6.【フィードバック】教員から、あなたの学修成果に対する適切な評価や指導はありましたか？	Q6	-	-
Q7.【アクティブ・ラーニング】グループワーク、討議、プレゼンテーション、ミニッツペーパーなどで、自分の考えや疑問を他者(教員や他の学生)に発信する機会がありましたか？(自身が発信した、発信しなかったではなく、教員からそのような機会が与えられていたかどうかで判断してください。)	Q7	-	Q6
Q8.【パフォーマンスの変化】この授業を通して、新しい知識や技能、態度が身に付いたと感じますか？	Q8	Q4	Q7
Q9.【満足度】総合的にみて、この授業に満足しましたか？	Q9	Q5	Q8
Q10.【自由記述】この授業で良かった点が具体的に記載してください。また、改善して欲しい点がある場合も具体的に記載してください。(自由記述、200字以内) ※授業改善の趣旨に反する、単なる教員への誹謗、中傷などを記述した場合には、個人を特定し情報モラル教育の視点により指導することがありますので十分注意してください。	Q10	Q6	Q9・Q10

<回答者数および回収率>

2020年度からWEB形式でアンケートを実施し、回収率の低下が懸念されておりましたが、2020年度前期は約70%、後期は約63%と比較的高い値でした。2021年度から調査対象を原則、全科目へと拡大し(受講生が少ない旧カリなどの授業を除く)、Course PowerからMicrosoft Formsへとプラットフォームを変更してアンケートを実施いたしました。2022年度からはAssessmentorを用い同様の方法で調査を実施しました。

ご承知のように、複数教員が関わる授業には、授業担当者が順番に入れ替わっていくオムニバス形式の授業と、チュートリアルや卒業研究のように学生をグループに分け、各グループに1名の教員がついて指導を行う形式の授業があります。学生側からすると、前者(オムニバス形式)では教員毎に複数回アンケートに回答しなければなりません、後者(クラス分け形式)では1回だけのアンケートとなります。全ての複数教員が関わる授業についてどちらの形式なのかを把握することは不可能でしたので、1回でもアンケートに回答すれば、回答者としてカウントし、それをその授業の履修者で除する形で回収率を算出しました。例えば、表2-1の教員A、B、Cの3名によるオムニバス形式の授業ですと、1回でもアンケートに回答すれば回答者としてカウントしますので、回答者は学生a、b、cの3名となり、履修者数は4名ですのでアンケート回収率は75%というように計算いたしました。延べでカウントすると、6/12=回収率50%となろうかと思いますが、授業形態の把握が困難でしたので、このような算出方法としております。

受講生授業アンケートを実施した授業数、履修者数、回答数、履修者数に対するアンケートの回収率を授業区分毎に表2-2にお示しします。上述のように計算を行っているため回答者数は少なくっており、反対に、回収率の数値は若干高めにしている可能性があることをご承知のうえ、ご覧ください。

表2-1 オムニバス授業における回答数の計算例

	教員 A	教員 B	教員 C	回 答
学生 a	○	○	○	あり
学生 b	○	○	×	あり
学生 c	×	×	○	あり
学生 d	×	×	×	なし

表2-2 アンケート実施科目数、回答数と回収率

	授業区分	2023年度前期				2023年度後期			
		授業数	履修者数	回答者数	回収率	授業数	履修者数	回答者数	回収率
スタンダード・オプション科目	講義	57	4,901	2,346	47.9%	41	3,315	1,690	51.0%
	演習	13	695	517	74.4%	9	364	210	57.7%
	実験・実習	127	5,507	2,577	46.8%	115	4,052	2,618	64.6%
	小計	197	11,103	5,440	49.0%	165	7,731	4,518	58.4%
専門科目	講義	406	21,185	12,727	60.1%	344	18,198	11,813	64.9%
	演習	95	3,810	1,827	48.0%	140	6,259	3,350	53.5%
	実験・実習	146	4,514	2,297	50.9%	128	4,494	2,224	49.5%
	小計	647	29,509	16,851	57.1%	612	28,951	17,387	60.1%
教職科目	講義	11	320	186	58.1%	17	470	209	44.5%
	演習	1	8	0	0.0%	3	57	44	77.2%
	実験・実習	0	—	—	—	1	42	38	90.5%
	小計	11	320	186	58.1%	17	470	209	44.5%
授業区分毎の合計	講義	474	26,406	15,259	57.8%	402	21,983	13,712	62.4%
	演習	109	4,513	2,344	51.9%	152	6,680	3,604	54.0%
	実験・実習	273	10,021	4,874	48.6%	244	8,588	4,880	56.8%
	合計	856	40,940	22,477	54.9%	798	37,251	22,196	59.6%

※実人数で算出（同一授業で教員毎に行っている場合、1授業1履修者としてカウント）

しておいて下さい。」と伝えて、教員が教室から去ってしまうと、このような強制力は働かず、どうしても回収率が低下してしまいます。2021年度は平均としては50～60%の値になっておりますが、科目間の回収率の差が大きく、同じ学科、学年でも、90%以上の回収率のある科目と非常に低い回収率の科目が混在しておりました。すなわち、回収率にはアンケート実施時の教員の行動が深く影響していることが推察されました。この反省点を踏まえて、2022年度はAssessmentorでのアンケート実施が開始され、「自己評価」の入力の続きに「授業アンケート」の入力があった点や、Assessmentorへの入力方法を先生方が丁寧に指導したこと等から、回収率が上昇したと考えております。2023年度はAssessmentorを用いた2年目の調査であり、慣れによる説明不足等が発生し、回収率の低下につながった可能性も考えられます。今後も回収率の高かった先生方に実施時の方法や工夫点をお伺いするなど、回収率をさらに上昇させる取り組みを実施したいと考えております。

<回答分布>

次に、表3～5に授業区分毎の設問内容とそれに対する回答数をお示しします。こちらは延べの回答数に基づいて計算しておりますので、合計の回答数が表2-2の値とは異なります。

表3 講義科目の設問と回答数 <共通・専門・教職 (n = 15,259)> <共通・専門・教職 (n = 13,712)>

	設 問	2023年度前期							2023年度後期						
		6	5	4	3	2	1	平均	6	5	4	3	2	1	平均
		大変そう思う まったくそう思わない							大変そう思う まったくそう思わない						
1. 学生の 自己評価	Q 1.【学修時間】	>5.5h 430	4.5-5.5h 479	3.5-4.5h 995	2.5-3.5h 2,763	1.5-2.5h 6,906	<1.5h 3,682	2.28	>5.5h 506	4.5-5.5h 524	3.5-4.5h 1,116	2.5-3.5h 2,532	1.5-2.5h 5,843	<1.5h 3,187	2.38
		2.8%	3.1%	6.5%	18.1%	45.3%	24.1%	3.7%	3.8%	8.1%	18.5%	42.6%	23.2%		
	Q 2.【学修意欲】	3,317	5,896	4,367	1,224	281	138	4.68	3,369	5,475	3,584	905	196	158	4.76
		21.7%	38.6%	28.6%	8.0%	1.8%	0.9%	24.6%	39.9%	26.1%	6.6%	1.4%	1.2%		
2. 授業内容と 教員の評価	Q 3.【聴覚情報】	4,415	6,385	3,266	799	237	120	4.89	4,160	5,830	2,839	602	144	100	4.95
		28.9%	41.8%	21.4%	5.2%	1.6%	0.8%	30.3%	42.5%	20.7%	4.4%	1.1%	0.7%		
	Q 4.【視覚情報】	4,476	6,357	3,255	766	251	111	4.90	4,132	5,809	2,809	651	174	122	4.93
		29.3%	41.7%	21.3%	5.0%	1.6%	0.7%	30.1%	42.4%	20.5%	4.7%	1.3%	0.9%		
	Q 5.【理解度の把握】	4,242	6,365	3,435	710	315	158	4.86	4,155	5,782	2,880	515	220	137	4.93
		27.8%	41.7%	22.5%	4.7%	2.1%	1.0%	30.3%	42.2%	21.0%	3.8%	1.6%	1.0%		
	Q 6.【フィードバック】	3,564	5,912	3,917	1,070	521	241	4.67	3,640	5,595	3,190	723	358	188	4.79
23.4%		38.7%	25.7%	7.0%	3.4%	1.6%	26.5%	40.8%	23.3%	5.3%	2.6%	1.4%			
3. 総合評価	Q 7.【アクティブ・ラーニング】	3,469	5,454	3,655	1,257	715	681	4.50	3,570	5,123	3,187	903	480	427	4.67
		22.7%	35.7%	24.0%	8.2%	4.7%	4.5%	26.0%	37.4%	23.2%	6.6%	3.5%	3.1%		
	Q 8.【パフォーマンスの変化】	4,477	6,805	3,245	455	160	81	4.97	4,280	6,159	2,691	333	120	95	5.01
		29.3%	44.6%	21.3%	3.0%	1.0%	0.5%	31.2%	44.9%	19.6%	2.4%	0.9%	0.7%		
	Q 9.【満足度】	4,462	6,673	3,259	544	177	105	4.95	4,197	6,179	2,666	424	132	90	4.99
		29.2%	43.7%	21.4%	3.6%	1.2%	0.7%	30.6%	45.1%	19.4%	3.1%	1.0%	0.7%		

表4 演習科目の設問と回答数 <共通・専門・教職 (n = 4,874)> <共通・専門・教職 (n = 4,880)>

	設 問	2023年度前期							2023年度後期						
		6	5	4	3	2	1	平均	6	5	4	3	2	1	平均
		大変そう思う まったくそう思わない							大変そう思う まったくそう思わない						
1. 学生の 自己評価	Q 1.【学修時間】	>5.5h 175	4.5-5.5h 177	3.5-4.5h 381	2.5-3.5h 896	1.5-2.5h 2,141	<1.5h 1,103	2.37	>5.5h 241	4.5-5.5h 173	3.5-4.5h 369	2.5-3.5h 833	1.5-2.5h 1,980	<1.5h 1,283	2.36
		3.6%	3.6%	7.8%	18.4%	43.9%	22.6%	4.9%	3.5%	7.6%	17.1%	40.6%	26.3%		
	Q 2.【学修意欲】	1,115	1,893	1,378	341	89	47	4.71	1,304	1,923	1,263	273	70	41	4.82
2. 授業内容と 教員の評価	Q 3.【聴覚情報】	22.9%	38.8%	28.3%	7.0%	1.8%	1.0%	4.96	26.7%	39.4%	25.9%	5.6%	1.4%	0.8%	5.01
		1,521	2,029	999	229	52	22	1,560	2,117	945	183	33	22	5.00	
	Q 4.【視覚情報】	31.2%	41.6%	20.5%	4.7%	1.1%	0.5%	4.96	32.0%	43.4%	19.4%	3.8%	0.7%	0.5%	5.00
	1,499	2,063	1,027	203	41	30	1,543	2,117	959	184	46	24	4.98		
	Q 5.【理解度の把握】	30.8%	42.3%	21.1%	4.2%	0.8%	0.6%	4.95	31.6%	43.4%	19.7%	3.8%	0.9%	0.5%	4.92
	1,464	2,100	1,033	170	59	34	1,521	2,109	977	162	66	33	4.86		
	Q 6.【フィードバック】	30.0%	43.1%	21.2%	3.5%	1.2%	0.7%	4.82	31.2%	43.2%	20.0%	3.3%	1.4%	0.7%	4.83
3. 総合評価	Q 7.【アクティブ・ラーニング】	1,312	1,975	1,163	264	101	49	4.83	1,427	2,095	1,025	207	82	31	4.86
		26.9%	40.5%	23.9%	5.4%	2.1%	1.0%	29.2%	42.9%	21.0%	4.2%	1.7%	0.6%	4.83	
	1,412	1,912	1,113	247	93	86	1,475	1,965	987	242	114	92	4.86		
	29.0%	39.2%	22.8%	5.1%	1.9%	1.8%	30.2%	40.3%	20.2%	5.0%	2.3%	1.9%	4.86		
	Q 8.【パフォーマンスの変化】	1,514	2,139	1,002	145	36	33	5.00	1,578	2,193	892	130	56	22	5.03
Q 9.【満足度】	31.1%	43.9%	20.6%	3.0%	0.7%	0.7%	4.98	32.3%	44.9%	18.3%	2.7%	1.1%	0.5%	5.01	
	1,470	2,186	950	176	55	29	4.98	1,543	2,183	914	154	57	24	5.01	
	30.2%	44.9%	19.5%	3.6%	1.1%	0.6%	31.6%	44.7%	18.7%	3.2%	1.2%	0.5%			

表5 実験・実習科目の設問と回答数 <共通・専門・教職 (n = 2,344)> <共通・専門・教職 (n = 3,604)>

	設 問	2023年度前期						平均	2023年度後期						平均
		6	5	4	3	2	1		6	5	4	3	2	1	
		大変そう思う まったくそう思わない							大変そう思う まったくそう思わない						
1. 学生の 自己評価	Q 1.【学修時間】	>5.5h	4.5-5.5h	3.5-4.5h	2.5-3.5h	1.5-2.5h	<1.5h	2.38	>5.5h	4.5-5.5h	3.5-4.5h	2.5-3.5h	1.5-2.5h	<1.5h	3.08
		126	88	197	429	794	709		456	282	523	760	998	584	
		5.4%	3.8%	8.4%	18.3%	33.9%	30.2%		12.7%	7.8%	14.5%	21.1%	27.7%	16.2%	
2. 授業内容と 教員の評価	Q 2.【学修意欲】	913	934	407	62	14	11	5.13	1,408	1,469	584	94	20	21	5.14
		39.0%	39.8%	17.4%	2.6%	0.6%	0.5%		39.1%	40.8%	16.2%	2.6%	0.6%	0.6%	
	Q 3.【聴覚情報】	857	1,006	356	90	21	8	5.10	1,403	1,548	530	78	23	15	5.16
		36.6%	42.9%	15.2%	3.8%	0.9%	0.3%		38.9%	43.0%	14.7%	2.2%	0.6%	0.4%	
	Q 4.【視覚情報】	841	1,001	400	63	22	11	5.09	1,322	1,567	585	88	23	13	5.12
		35.9%	42.7%	17.1%	2.7%	0.9%	0.5%		36.7%	43.5%	16.2%	2.4%	0.6%	0.4%	
	Q 5.【理解度の把握】	845	972	421	53	35	18	5.06	1,384	1,498	587	75	31	21	5.13
36.0%		41.5%	18.0%	2.3%	1.5%	0.8%	38.4%		41.6%	16.3%	2.1%	0.9%	0.6%		
3. 総合評価	Q 6.【フィードバック】	858	987	379	66	34	14	5.08	1,428	1,451	582	81	44	17	5.13
		36.6%	42.1%	16.2%	2.8%	1.5%	0.6%		39.6%	40.3%	16.1%	2.2%	1.2%	0.5%	
	Q 7.【アクティブ・ラーニング】	841	951	403	77	37	32	5.02	1,427	1,455	567	87	41	21	5.13
35.9%	40.6%	17.2%	3.3%	1.6%	1.4%	39.6%	40.4%		15.7%	2.4%	1.1%	0.6%			
3. 総合評価	Q 8.【パフォーマンスの変化】	968	1,018	312	33	7	3	5.24	1,545	1,541	447	39	13	10	5.26
		41.3%	43.4%	13.3%	1.4%	0.3%	0.1%		42.9%	42.8%	12.4%	1.1%	0.4%	0.3%	
	Q 9.【満足度】	968	1,014	307	35	11	3	5.23	1,471	1,533	507	63	13	13	5.21
41.3%	43.3%	13.1%	1.5%	0.5%	0.1%	40.8%	42.5%		14.1%	1.7%	0.4%	0.4%			

実験・実習科目は元々参加型の授業ですので、Q 7（アクティブ・ラーニング）が高いのは例年同様に当然と言える結果ですが、講義、演習科目よりもQ 2（学修意欲）が高く、実際に手を動かすことから意欲的に学修に取り組んでいる様子が窺えます。また、教員が学生一人ひとりに目を向けて、適切にフィードバックを与えていることも想像がつかます。Q 5（理解度の把握）やQ 6（フィードバックの有無）も高く、それらの総合結果として、Q 8（パフォーマンスの変化）、Q 9（満足度）も講義、演習科目より高い数値が出ているものと思われます。この結果は例年同様な傾向を示し、本学の特色の一つでもあると考えられます。

<アンケート結果の経年変化>

次に過去5年間のアンケート結果の経年変化を、授業区分毎に表6～8で示します。

表6 講義科目における全体平均値の推移（過去5年間分）

設問概要	2023前期 (n=15259)	2023後期 (n=13712)	2022	2022前期 (n=19757)	2022後期 (n=15026)	2021	2021前期 (n=13952)	2021後期 (n=12009)	2020	2020前期 (n=5867)	2020後期 (n=4973)	2019	2019前期 (n=8715)	2019後期 (n=7063)
Q 1.【学修時間】	2.28	2.38	Q 1	2.27	2.39	Q 1	2.20	2.30	Q 1	2.74	2.61	Q 1	2.75	2.71
Q 2.【学修意欲】	4.68	4.76	Q 2	4.61	4.68	Q 2	4.50	4.62	Q 2	4.35	4.62	Q 2	4.43	4.36
Q 3.【聴覚情報】	4.89	4.95	Q 3	4.82	4.89	Q 3	4.93	5.00	Q 3	4.39	4.50	Q 3	4.86	4.77
Q 4.【視覚情報】	4.90	4.93	Q 4	4.80	4.87	Q 4	4.67	4.73				Q 4	4.91	4.82
Q 5.【理解度の把握】	4.86	4.93	Q 5	4.78	4.87	Q 5	4.67	4.77	-	-	-	Q 5	4.79	4.76
Q 6.【フィードバック】	4.67	4.79	Q 6	4.54	4.71	Q 6	4.39	4.54	-	-	-	-	-	-
Q 7.【アクティブ・ラーニング】	4.50	4.67	Q 7	4.31	4.50	Q 7	4.30	4.44	-	-	-	Q 6	4.26	4.17
Q 8.【パフォーマンスの変化】	4.97	5.01	Q 8	4.88	4.94	Q 8	4.88	4.94	Q 4	4.69	4.72	Q 7	4.97	4.91
Q 9.【満足度】	4.95	4.99	Q 9	4.87	4.92	Q 9	4.81	4.88	Q 5	4.86	4.83	Q 8	5.06	4.98

表7 演習科目における全体平均値の推移（過去5年間分）

設問概要	2023前期 (n=4874)	2023後期 (n=4880)	2022	2022前期 (n=7093)	2022後期 (n=5570)	2021	2021前期 (n=5445)	2021後期 (n=3338)	2020	2020前期 (n=849)	2020後期 (n=912)	2019	2019前期 (n=1307)	2019後期 (n=1056)
Q 1.【学修時間】	2.37	2.36	Q 1	2.33	2.43	Q 1	2.26	2.47	Q 1	3.69	3.03	Q 1	3.70	3.14
Q 2.【学修意欲】	4.71	4.82	Q 2	4.69	4.76	Q 2	4.55	4.69	Q 2	4.26	4.92	Q 2	4.88	4.66
Q 3.【聴覚情報】	4.96	5.01	Q 3	4.90	4.94	Q 3	4.98	5.07	Q 3	4.60	4.90	Q 3	5.17	4.94
Q 4.【視覚情報】	4.96	5.00	Q 4	4.88	4.92	Q 4	4.70	4.78				Q 4	5.20	4.94
Q 5.【理解度の把握】	4.95	4.98	Q 5	4.88	4.92	Q 5	4.71	4.83	-	-	-	Q 5	5.10	4.94
Q 6.【フィードバック】	4.82	4.92	Q 6	4.75	4.84	Q 6	4.59	4.72	-	-	-	-	-	-
Q 7.【アクティブ・ラーニング】	4.83	4.86	Q 7	4.67	4.79	Q 7	4.39	4.64	-	-	-	Q 6	4.85	4.92
Q 8.【パフォーマンスの変化】	5.00	5.03	Q 8	4.93	4.96	Q 8	4.83	4.96	Q 4	4.84	5.00	Q 7	5.30	5.16
Q 9.【満足度】	4.98	5.01	Q 9	4.93	4.94	Q 9	4.81	4.90	Q 5	5.04	5.19	Q 8	5.36	5.21

表8 実験・実習科目における全体平均値の推移（過去5年間分）

設問概要	2023前期 (n=2344)	2023後期 (n=3604)	2022	2022前期 (n=3020)	2022後期 (n=3850)	2021	2021前期 (n=2712)	2021後期 (n=2840)	2020	2020前期 (n=240)	2020後期 (n=261)	2019	2019前期 (n=333)	2019後期 (n=730)
Q 1.【学修時間】	2.38	3.08	Q 1	2.54	3.14	Q 1	2.67	3.33	Q 1	3.61	3.00	Q 1	3.40	3.65
Q 2.【学修意欲】	5.13	5.14	Q 2	5.08	5.12	Q 2	4.95	5.05	Q 2	5.30	5.06	Q 2	4.76	5.02
Q 3.【聴覚情報】	5.10	5.16	Q 3	5.05	5.07	Q 3	5.14	5.27	Q 3	4.71	4.87	Q 3	4.96	5.27
Q 4.【視覚情報】	5.09	5.12	Q 4	4.99	5.03	Q 4	4.92	4.97				Q 4	4.87	5.18
Q 5.【理解度の把握】	5.06	5.13	Q 5	4.96	5.07	Q 5	4.89	5.04	-	-	-	Q 5	4.96	5.25
Q 6.【フィードバック】	5.08	5.13	Q 6	5.00	5.06	Q 6	4.93	5.10	-	-	-	-	-	-
Q 7.【アクティブ・ラーニング】	5.02	5.13	Q 7	4.88	5.08	Q 7	4.78	5.07	-	-	-	Q 6	5.23	5.35
Q 8.【パフォーマンスの変化】	5.24	5.26	Q 8	5.21	5.18	Q 8	5.11	5.26	Q 4	5.40	5.19	Q 7	5.24	5.36
Q 9.【満足度】	5.23	5.21	Q 9	5.19	5.14	Q 9	5.11	5.17	Q 5	5.50	5.31	Q 8	5.20	5.41

過去5年間の経過に目を向けると、2020年度は急遽遠隔授業を実施することとなり、受講生も教員もともに慣れない環境下での学習となり、それによって多少の結果の変動が認められました。しかし、対面授業から遠隔授業となっても、学修意欲はそれほど変わっていない結果となりました。学修時間については後述いたします。それ以外の大きな変化としては、Q3（聴覚情報）とQ4（視覚情報）があげられます。2020年度は上記の理由から、満足のいく授業を展開できなかった先生方も多かったのではないのでしょうか。2021年度はその苦い経験を活かし、また、対面授業も一部で復活したことで、より分かりやすい授業を工夫されたのだと思われます。2022-2023年度も概ね同様な結果となり、様々な授業形態が存在するなかで、状況に合った実施や工夫が引き続き検討されているものと考えられます。

<学修時間>

次に、学修時間の推定値の推移（過去5年間分）を表9にお示しします。学修時間に関する設問は、2019年度までは授業外の学修時間を回答してもらっており、回答1：0時間、2：0.5時間、3：1.5時間、4：2.5時間、5：3.5時間、6：4.5時間と仮定して平均値を算出しておりました。2020年度は遠隔授業が実施されたため、トータルの学修時間を回答してもらっており、回答1：0.5時間、2：1.5時間、3：2.5時間、4：3.5時間、5：4.5時間、6：5.5時間と仮定しております。2021年度からは対面と遠隔が併用された授業が実施されたため、トータルの学修時間を回答してもらっており、回答1：1時間、2：2時間、3：3時間、4：4時間、5：5時間、6：6時間として学修時間を推定しました。

表9 学修時間の推定値（単位：時間、過去5年間）

	2023前期	2023後期	2022前期	2022後期	2021前期	2021後期	2020前期	2020後期	2019前期	2019後期
	トータル（授業時間を含む）								授業外学修	
講義	2.28	2.38	2.27	2.39	2.20	2.30	2.24	2.11	1.31	1.28
演習	2.37	2.36	2.33	2.43	2.26	2.47	3.19	2.53	2.23	1.68
実験・実習	2.38	3.08	2.54	3.14	2.67	3.33	3.11	2.50	1.94	2.16

2020年度以降は、トータルの学修時間ですから、それ以前よりも長くなっているのは当然ですが、プラス1時間程度にとどまっております。

次に、アンケートQ1で「選択肢1（1.5時間未満（例：教室でしか学修しておらず、授業外学修を全くしていない））」と回答した学生、および「選択肢2（1.5時間～2.5時間未満（例：授業90分＋授業外学修1時間弱））」と回答した学生の割合の推移を表10にお示しします。

表10 授業外学修が1時間未満の学生の割合（過去5年間）

	授業外学修	2023前期	2023後期	2022前期	2022後期	2021前期	2021後期	2020前期	2020後期	2019前期	2019後期
講義	0 h	24.1%	23.2%	23.4%	19.6%	21.1%	17.9%	10.6%	12.3%	11.3%	12.8%
	0-1 h	45.3%	42.6%	46.5%	46.9%	52.1%	52.3%	41.0%	41.7%	38.3%	38.0%
演習	0 h	22.6%	26.3%	22.5%	23.6%	22.4%	15.2%	8.0%	9.2%	7.3%	9.4%
	0-1 h	43.9%	40.6%	45.0%	40.3%	46.9%	47.5%	22.7%	32.0%	20.4%	31.9%
実験・実習	0 h	30.2%	16.2%	27.1%	12.9%	24.7%	10.2%	2.9%	11.9%	7.5%	2.3%
	0-1 h	33.9%	27.7%	31.8%	28.9%	33.0%	28.9%	18.8%	33.7%	24.3%	17.4%

授業時間以外は全く学修していない（選択肢1）、と回答した学生が、2023年度はいずれの授業区分でも2割前後おり、数年間の比較では上昇し続けています。授業外学修が1時間未満（選択肢2）の学生は、2022年度よりも若干減少してはいますが、講義、演習科目では依然として4割程度います。

2021年度からの結果が悪化を示しているのは、調査対象科目を全科目へと拡大した影響があると考えています。以前のように自分が担当している授業の中から、1つ選んでアンケートを実施する場合、どうしても良い結果が得られそうな、自信のある授業を展開している科目を選びたくなります。つまり、2020年度までの調査科目を選ぶ選択式で行っていたアンケートは「見たいものだけ見ていた」というバイアスが掛かった状態だったのかもしれませんが、2021年度以降の結果より、「授業時間以外は全く学修していない学生」と「授業外で1時間程度しか学修していない学生」が合計5～7割もいるという状況が、学生の真の姿だとすると非常に大きな問題だと考えます。また、2022年度に比べて2023年度は、「授業時間以外は全く学修していない学生」がより一層増加しており、授業改善の重要事項として一人ひとりの教員が再度検討する必要があると考えます。

先生方もご承知のことと思いますが、45時間程度の学修時間を要する内容で1単位となります。1単位の講義、演習科目なら90分の授業15回と毎週1時間程度の自己学修でよいのですが、2単位の講義、演習科目では、毎週4時間程度の自己学修を課さなければなりません。ご自身が担当されている授業の単位数から、どの程度の自己学修時間を必要とするかをご判断頂き、**自己学修を前提とした授業を設計**して頂きたいいたします。また、授業外学修時間が長くなると、自由記述で不満を述べる学生が多くなりますので、学生自身が単位数と学修時間の関係をあまり認識していないケースもあると思われます。ガイダンス等で単位制度の考え方、すなわち2単位の講義、演習科目を履修する場合には、その科目について毎週4時間程度の自己学修をするのが標準である、ということを繰り返し説明する必要もあるかと感じております。

<総合評価と学修態度および教授技量の関係>

総合評価（Q8、Q9）と学生の学修態度（Q1、Q2）や教授技量（Q3～Q7）の関係をお示しします。授業区分毎に分けると、実験・実習ではQ8、Q9の質問項目で低い数値をつけた学生が少なく比較が出来ないため、全授業区分における結果を示しております。

表11 総合評価（パフォーマンスの変化）と学生の学修態度および教授技量の関係（2023年度前期）

	計		6	5	4	3	2	1	平均	6・5群との差
			大変そう思う			まったくそう思わない				
Q8(6・5) パフォーマンスの変化が大きい群	16,917	Q1.【学修時間】	640 3.8%	622 3.7%	1,217 7.2%	3,225 19.1%	7,583 44.8%	3,630 21.5%	2.38	
		Q2.【学修意欲】	5,162 30.5%	7,724 45.7%	3,250 19.2%	581 3.4%	112 0.7%	60 0.4%	5.01	
		Q3.【聴覚情報】	6,504 38.4%	8,058 47.6%	1,861 11.0%	354 2.1%	71 0.4%	26 0.2%	5.21	
		Q4.【視覚情報】	6,545 38.7%	8,157 48.2%	1,821 10.8%	270 1.6%	75 0.4%	23 0.1%	5.23	
		Q5.【理解度の把握】	6,340 37.5%	8,258 48.8%	1,874 11.1%	269 1.6%	115 0.7%	45 0.3%	5.20	
		Q6.【フィードバック】	5,612 33.2%	8,001 47.3%	2,398 14.2%	552 3.3%	237 1.4%	94 0.6%	5.06	
		Q7.【アクティブラーニング】	5,589 33.0%	7,564 44.7%	2,259 13.4%	736 4.4%	393 2.3%	357 2.1%	4.96	
Q8(4・3) パフォーマンスの変化が小さい群	5,190	Q1.【学修時間】	80 1.5%	112 2.2%	338 6.5%	828 16.0%	2,155 41.5%	1,677 32.3%	2.09	-0.29
		Q2.【学修意欲】	156 3.0%	961 18.5%	2,818 54.3%	961 18.5%	212 4.1%	70 1.3%	3.94	-1.07
		Q3.【聴覚情報】	266 5.1%	1,313 25.3%	2,688 51.8%	698 13.4%	168 3.2%	48 0.9%	4.13	-1.09
		Q4.【視覚情報】	253 4.9%	1,222 23.5%	2,788 53.7%	709 13.7%	153 2.9%	43 0.8%	4.11	-1.12
		Q5.【理解度の把握】	195 3.8%	1,142 22.0%	2,951 56.9%	612 11.8%	205 3.9%	67 1.3%	4.06	-1.14
		Q6.【フィードバック】	106 2.0%	844 16.3%	3,006 57.9%	801 15.4%	316 6.1%	103 2.0%	3.87	-1.19
		Q7.【アクティブラーニング】	117 2.3%	725 14.0%	2,870 55.3%	812 15.6%	362 7.0%	297 5.7%	3.72	-1.24
Q8(2・1) パフォーマンスの変化が小さい群	320	Q1.【学修時間】	9 2.8%	8 2.5%	14 4.4%	29 9.1%	82 25.6%	178 55.6%	1.81	-0.57
		Q2.【学修意欲】	21 6.6%	27 8.4%	68 21.3%	78 24.4%	59 18.4%	66 20.6%	2.98	-2.03
		Q3.【聴覚情報】	15 4.7%	34 10.6%	59 18.4%	63 19.7%	71 22.2%	76 23.8%	2.84	-2.37
		Q4.【視覚情報】	8 2.5%	24 7.5%	63 19.7%	51 15.9%	86 26.9%	86 26.9%	2.61	-2.62
		Q5.【理解度の把握】	9 2.8%	21 6.6%	53 16.6%	48 15.0%	89 27.8%	98 30.6%	2.49	-2.71
		Q6.【フィードバック】	8 2.5%	14 4.4%	44 13.8%	44 13.8%	103 32.2%	107 33.4%	2.31	-2.75
		Q7.【アクティブラーニング】	7 2.2%	15 4.7%	32 10.0%	30 9.4%	90 28.1%	144 45.0%	2.07	-2.88

表13 総合評価（パフォーマンスの変化）と学生の学修態度および教授技量の関係（2023年度後期）

	計		6	5	4	3	2	1	平均	6・5群との差
			大変そう思う			まったくそう思わない				
Q8(6・5) パフォーマンスの変化が大きい群	17,292	Q1.【学修時間】	1,114 6.4%	844 4.9%	1,611 9.3%	3,319 19.2%	7,050 40.8%	3,354 19.4%	2.59	
		Q2.【学修意欲】	5,923 34.3%	7,971 46.1%	2,764 16.0%	454 2.6%	90 0.5%	66 0.4%	5.10	
		Q3.【聴覚情報】	6,888 39.8%	8,338 48.2%	1,748 10.1%	227 1.3%	38 0.2%	13 0.1%	5.26	
		Q4.【視覚情報】	6,790 39.3%	8,466 49.0%	1,724 10.0%	227 1.3%	55 0.3%	14 0.1%	5.25	
		Q5.【理解度の把握】	6,829 39.5%	8,385 48.5%	1,702 9.8%	216 1.2%	101 0.6%	32 0.2%	5.25	
		Q6.【フィードバック】	6,358 36.8%	8,363 48.4%	1,984 11.5%	345 2.0%	177 1.0%	49 0.3%	5.17	
		Q7.【アクティブラーニング】	6,301 36.4%	7,869 45.5%	2,027 11.7%	508 2.9%	332 1.9%	240 1.4%	5.08	
Q8(4・3)	4,531	Q1.【学修時間】	73 1.6%	124 2.7%	377 8.3%	762 16.8%	1,670 36.9%	1,525 33.7%	2.14	-0.44
		Q2.【学修意欲】	129 2.8%	841 18.6%	2,586 57.1%	746 16.5%	155 3.4%	66 1.5%	3.97	-1.13
		Q3.【聴覚情報】	208 4.6%	1,103 24.3%	2,498 55.1%	578 12.8%	108 2.4%	21 0.5%	4.15	-1.12
		Q4.【視覚情報】	178 3.9%	986 21.8%	2,574 56.8%	633 14.0%	123 2.7%	32 0.7%	4.08	-1.17
		Q5.【理解度の把握】	197 4.3%	951 21.0%	2,689 59.3%	500 11.0%	144 3.2%	44 1.0%	4.09	-1.15
		Q6.【フィードバック】	111 2.4%	740 16.3%	2,769 61.1%	621 13.7%	216 4.8%	66 1.5%	3.94	-1.24
		Q7.【アクティブラーニング】	143 3.2%	633 14.0%	2,672 59.0%	683 15.1%	224 4.9%	169 3.7%	3.84	-1.23
Q8(2・1) パフォーマンスの変化が小さい群	316	Q1.【学修時間】	11 3.5%	8 2.5%	16 5.1%	31 9.8%	87 27.5%	163 51.6%	1.90	-0.69
		Q2.【学修意欲】	17 5.4%	36 11.4%	68 21.5%	67 21.2%	40 12.7%	87 27.5%	2.93	-2.17
		Q3.【聴覚情報】	11 3.5%	32 10.1%	61 19.3%	54 17.1%	54 17.1%	103 32.6%	2.68	-2.59
		Q4.【視覚情報】	9 2.8%	23 7.3%	46 14.6%	61 19.3%	65 20.6%	112 35.4%	2.46	-2.79
		Q5.【理解度の把握】	15 4.7%	37 11.7%	43 13.6%	32 10.1%	71 22.5%	115 36.4%	2.56	-2.69
		Q6.【フィードバック】	9 2.8%	19 6.0%	38 12.0%	31 13.0%	89 28.2%	120 38.0%	2.28	-2.89
		Q7.【アクティブラーニング】	13 4.1%	23 7.3%	35 11.1%	36 11.4%	78 24.7%	130 41.1%	2.31	-2.77

表12 総合評価（満足度）と学生の学修態度および教授技量の関係（2023年度前期）

	計		6	5	4	3	2	1	平均	6・5群との差
			大変そう思う		まったくそう思わない					
Q9(6・5) 満足度の高い群	16,770	Q1.【学修時間】	618 3.7%	609 3.6%	1,180 7.0%	3,179 19.0%	7,495 44.7%	3,689 22.0%	2.37	
		Q2.【学修意欲】	5,114 30.5%	7,683 45.8%	3,229 19.3%	536 3.2%	115 0.7%	63 0.4%	5.01	
		Q3.【聴覚情報】	6,565 39.1%	8,129 48.5%	1,713 10.2%	264 1.6%	29 0.2%	24 0.1%	5.25	
		Q4.【視覚情報】	6,600 39.4%	8,203 48.9%	1,687 10.1%	188 1.1%	44 0.3%	21 0.1%	5.26	
		Q5.【理解度の把握】	6,334 37.8%	8,156 48.6%	1,880 11.2%	236 1.4%	99 0.6%	43 0.3%	5.21	
		Q6.【フィードバック】	5,593 33.4%	7,932 47.3%	2,415 14.4%	510 3.0%	211 1.3%	86 0.5%	5.07	
		Q7.【アクティブラーニング】	5,525 32.9%	7,418 44.2%	2,343 14.0%	712 4.2%	377 2.2%	375 2.2%	4.95	
Q9(4・3) 満足度の低い群	5,268	Q1.【学修時間】	92 1.7%	123 2.3%	364 6.9%	860 16.3%	2,211 42.0%	1,618 30.7%	2.13	-0.23
		Q2.【学修意欲】	192 3.6%	988 18.8%	2,811 53.4%	998 18.9%	201 3.8%	68 1.3%	3.96	-1.06
		Q3.【聴覚情報】	199 3.8%	1,249 23.7%	2,822 53.6%	765 14.5%	179 3.4%	45 0.9%	4.07	-1.17
		Q4.【視覚情報】	182 3.5%	1,179 22.4%	2,924 55.5%	771 14.6%	159 3.0%	33 0.6%	4.07	-1.19
		Q5.【理解度の把握】	185 3.5%	1,244 23.6%	2,917 55.4%	631 12.0%	209 4.0%	68 1.3%	4.07	-1.14
		Q6.【フィードバック】	117 2.2%	914 17.4%	2,971 56.4%	828 15.7%	320 6.1%	105 2.0%	3.88	-1.19
		Q7.【アクティブラーニング】	167 3.2%	865 16.4%	2,764 52.5%	814 15.5%	366 6.9%	285 5.4%	3.77	-1.18
Q9(2・1) 満足度の低い群	380	Q1.【学修時間】	18 4.7%	8 2.1%	23 6.1%	45 11.8%	111 29.2%	175 46.1%	2.03	-0.34
		Q2.【学修意欲】	23 6.1%	40 10.5%	99 26.1%	87 22.9%	64 16.8%	65 17.1%	3.14	-1.87
		Q3.【聴覚情報】	11 2.9%	27 7.1%	75 19.7%	84 22.1%	101 26.6%	81 21.3%	2.73	-2.51
		Q4.【視覚情報】	14 3.7%	25 6.6%	63 16.6%	71 18.7%	108 28.4%	98 25.8%	2.61	-2.65
		Q5.【理解度の把握】	15 3.9%	23 6.1%	81 21.3%	61 16.1%	100 26.3%	99 26.1%	2.67	-2.54
		Q6.【フィードバック】	9 2.4%	16 4.2%	62 16.3%	57 15.0%	123 32.4%	113 29.7%	2.40	-2.67
		Q7.【アクティブラーニング】	14 3.7%	23 6.1%	56 14.7%	51 13.4%	96 25.3%	139 36.6%	2.39	-2.55

表14 総合評価（満足度）と学生の学修態度および教授技量の関係（2023年度後期）

	計		6	5	4	3	2	1	平均	6・5群との差
			大変そう思う まったくそう思わない							
Q9(6・5) 満足度の高い群	17,101	Q1.【学修時間】	1,089 6.4%	813 4.8%	1,581 9.2%	3,262 19.1%	6,975 40.8%	3,381 19.8%	2.58	
		Q2.【学修意欲】	5,873 34.3%	7,851 45.9%	2,768 16.2%	428 2.5%	99 0.6%	62 0.4%	5.10	
		Q3.【聴覚情報】	6,930 40.5%	8,307 48.6%	1,627 9.5%	162 0.9%	24 0.1%	12 0.1%	5.28	
		Q4.【視覚情報】	6,846 40.0%	8,416 49.2%	1,625 9.5%	159 0.9%	36 0.2%	8 0.0%	5.28	
		Q5.【理解度の把握】	6,846 40.0%	8,285 48.4%	1,648 9.6%	188 1.1%	82 0.5%	26 0.2%	5.26	
		Q6.【フィードバック】	6,331 37.0%	8,232 48.1%	1,979 11.6%	331 1.9%	173 1.0%	44 0.3%	5.18	
		Q7.【アクティブラーニング】	6,275 36.7%	7,659 44.8%	2,047 12.0%	528 3.1%	338 2.0%	239 1.4%	5.07	
Q9(4・3) 満足度の低い群	4,727	Q1.【学修時間】	99 2.1%	155 3.3%	419 8.9%	815 17.2%	1,753 37.1%	1,486 31.4%	2.22	-0.36
		Q2.【学修意欲】	180 3.8%	962 20.4%	2,591 54.8%	774 16.4%	142 3.0%	67 1.4%	4.01	-1.09
		Q3.【聴覚情報】	175 3.7%	1,147 24.3%	2,617 55.4%	649 13.7%	102 2.2%	20 0.4%	4.12	-1.16
		Q4.【視覚情報】	134 2.8%	1,050 22.2%	2,677 56.6%	702 14.9%	120 2.5%	34 0.7%	4.06	-1.22
		Q5.【理解度の把握】	192 4.1%	1,065 22.5%	2,735 57.9%	520 11.0%	157 3.3%	49 1.0%	4.10	-1.16
		Q6.【フィードバック】	148 3.1%	881 18.6%	2,773 58.7%	633 13.4%	215 4.5%	64 1.4%	3.98	-1.19
		Q7.【アクティブラーニング】	170 3.6%	846 17.9%	2,646 56.0%	664 14.0%	222 4.7%	171 3.6%	3.91	-1.16
Q9(2・1) 満足度の低い群	329	Q1.【学修時間】	14 4.3%	11 3.3%	5 1.5%	40 12.2%	78 23.7%	181 55.0%	1.87	-0.70
		Q2.【学修意欲】	21 6.4%	43 13.1%	65 19.8%	65 19.8%	45 13.7%	89 27.1%	2.97	-2.13
		Q3.【聴覚情報】	9 2.7%	28 8.5%	64 19.5%	49 14.9%	74 22.5%	104 31.6%	2.59	-2.70
		Q4.【視覚情報】	8 2.4%	14 4.3%	45 13.7%	58 17.6%	87 26.4%	117 35.6%	2.32	-2.96
		Q5.【理解度の把握】	14 4.3%	26 7.9%	56 17.0%	39 11.9%	78 23.7%	115 35.0%	2.52	-2.74
		Q6.【フィードバック】	7 2.1%	17 5.2%	39 11.9%	43 13.1%	96 29.2%	127 38.6%	2.22	-2.95
		Q7.【アクティブラーニング】	19 5.8%	27 8.2%	42 12.8%	36 10.9%	74 22.5%	129 39.2%	2.45	-2.62

表11および13より、パフォーマンスの変化が小さい群（Q 8（2・1））では、授業時間以外は学修していない（Q 1の選択肢1）と回答した学生が半数以上おります。勉強していないので、当然ですがパフォーマンスはほとんど変化しないという結果に繋がっているものと思われます。

表11～14は多くの数値が並んでいますので、比較しにくいと思われます。そこで、平均値だけを一部抜粋して作成したのが表15となります。

表15 パフォーマンスの変化と満足度に与える因子

	2023年度前期						2023年度後期					
	パフォーマンスの変化			満足度			パフォーマンスの変化			満足度		
	大きい	小さい	差	高い	低い	差	大きい	小さい	差	高い	低い	差
Q1.【学修時間】	2.38	1.81	-0.57	2.37	2.03	-0.34	2.59	1.90	-0.69	2.58	1.87	-0.70
Q2.【学修意欲】	5.01	2.98	-2.03	5.01	3.14	-1.87	5.10	2.93	-2.17	5.10	2.97	-2.13
Q3.【聴覚情報】	5.21	2.84	-2.37	5.25	2.73	-2.51	5.26	2.68	-2.59	5.28	2.59	-2.70
Q4.【視覚情報】	5.23	2.61	-2.62	5.26	2.61	-2.65	5.25	2.46	-2.79	5.28	2.32	-2.96
Q5.【理解度の把握】	5.20	2.49	-2.71	5.21	2.67	-2.54	5.25	2.56	-2.69	5.26	2.52	-2.74
Q6.【フィードバックの有無】	5.06	2.31	-2.75	5.07	2.40	-2.67	5.17	2.28	-2.89	5.18	2.22	-2.95
Q7.【アクティブ・ラーニング】	4.96	2.07	-2.88	4.95	2.39	-2.55	5.08	2.31	-2.77	5.07	2.45	-2.62

学修時間（Q 1）を見てみますと、パフォーマンスの変化の大きい群と小さい群の差は前期0.57、後期0.69を示し、満足度の高い群と低い群の差は前期0.34、後期0.70を示しています。パフォーマンスの変化は学修の成果ですので、相応の時間を学修に費やす必要性があり、学修時間が影響すると考えます。一方、満足度に関しては、前期にて差が小さい結果となりました。これは少し偏見があらうかと思いますが、「ほとんど勉強しなくても単位が取れた。だから満足だ。」と考える学生がいるのかもしれませんが。

教授技量（Q 3～Q 7）は、パフォーマンスの変化、満足度いずれにも大きく関係しております。視覚情報（Q 3）と聴覚情報（Q 4）は、満足度における差の方が、パフォーマンスの変化における差よりもごく僅かですが0.1～0.2ポイント程度大きくなっておりますので、より満足度に与える影響が大きい、と考えられます。一方、僅かな差ですが、パフォーマンスの変化に強い影響力がありそうなのが、フィードバックの有無（Q 6）です。やはり学生にやらせてみて、間違っていたらそれを修正する、ということを繰り返すことによって、学生がより良いパフォーマンスを発揮できるようになる、ということだと思われます。少し意外だったのが、Q 7です。アクティブ・ラーニングとタイトルを付けていますが、質問事項は「グループワーク、討議、プレゼンテーション、ミニッツペーパーなどで、自分の考えや疑問を他者（教員や他の学生）に発信する機会がありましたか？（自身が発信した、発信しなかったではなく、教員からそのような機会が与えられていたかどうかで判断してください。）」というものです。先生方も経験があると思いますが、授業中に学生を当てて答えを求めると嫌がられることが多くあります。学生は発言の機会など求めているのかもしれないと思ってしまうのですが、アンケート結果はパフォーマンスの変化、満足度ともに発言の機会を与えることも重要であることを示しています。自分の考えや意見は持っている。しかし、それをみんなの前で発言するのは恥ずかしい、ということなのかもしれません。こういったことを考慮して、学生の考えや意見をうまく引き出す手法を工夫し続けることが必要と思われます。

アンケートには自由記述もございますので、教授技量（Q 3～Q 7）に現れてこないような項目について改善点を指摘してくれる場合もあるかと思えます。授業の技術面だけでなく、学生の想いを記述してもらえる関係性を築くことや、学生とどう向き合うのかもとても重要なのだと思われます。

<まとめ>

2023年度は前年度に引き続きAssessmentorを用いてアンケートを実施いたしました。Assessmentorの仕様上、1科目で1回だけのアンケートとなるため、複数教員が関与するオムニバス形式の授業などでは改善点が見えにくくなったという意見がありました。受講生にとっては一つの科目としての評価であり、授業改善へ向けて担当教員間での情報共有と連携がこれまで以上に求められるようになったと考えます。自由記載欄については、どの教員へ対するコメントかを記載するよう呼びかけるなど、工夫することで改善できる点もあると考えます。

2021年度から調査対象科目が全科目へと拡大され、2023年度も同様に調査を実施しました。手間が掛かるためにご不満に思われる先生方もまだいらっしゃると思いますが、従来の担当科目から一つ選択しての調査では見えてこなかった（あるいは、見ようとしなかった）部分も見えてくるようになり、大学全体としてより正しい方向に向かって改善できるようになると信じております。まだ3年間ということで今後もデータの蓄積が必要となりますが、調査の都度、授業改善へ向けて可能なことから早期に取り組むことを続けて参りましょう。

授業アンケート等により学生の意見を集め、その意見を参考にしながら授業の改善を進めていくことはとても重要です。また、授業を効果的に展開していくため、FD委員会ではこの受講生授業アンケートと併せて、授業参観ウィーク（教員相互の授業参観）、講演会、教授技術やコミュニケーション能力を磨く参加型研修会（ワークショップ）など様々なプログラムを用意しております。さらに、授業改善へ向けた相談にも委員会やワーキングで検討・対応してサポートして参りたいと考えております。教職員一丸となって教育方法を深化させるべく、今後ともFD活動への積極的な参加をお願い申し上げます。